

第6回戸塚環境センター施設整備基本構想基本計画審議会 議事概要

■開催日時

平成29年5月12日（金）13時30分から16時00分まで

■開催場所

朝日環境センター4階 研修室

■出席者

1 委員

(1) 市民

谷田部千春委員、小坂久仁子委員

(2) 民間団体から選出された者

石川義明委員、富田龍一郎委員、細野博隆委員、稲垣寛行委員、関延子委員、勝山健治委員、中山康委員

(3) 知識経験者

稲川和成委員、幡野茂委員、板橋博美委員

(4) 学識経験者

濱田雅巳会長、橋詰博樹副会長

※欠席者

木村委員

2 事務局

環境部長、廃棄物対策課長、環境施設課長他7名、戸塚環境センター所長他1名、公益社団法人全国都市清掃会議1名、株式会社エックス都市研究所3名

■公開非公開の別

公開

■傍聴者の数

3名

■次第

1 開会

2 議事

- (1) 基本計画の概要、基本的条件について
- (2) 処理方法（選定方法）について

- (3) 施設規模及び計画ごみ質について
- (4) 環境保全計画（公害防止基準）について
- (5) 啓発施設・地域還元施設について
- 3 報告
- (1) 埋設廃棄物の調査結果について
- 4 閉会

■会議資料

- 資料1 戸塚環境センター施設整備基本計画の構成（案）
- 資料2 川口市戸塚環境センター施設整備基本計画（案）[第1章、第2章]
- 資料3 処理方式の検討（案）
- 資料4 施設規模の検討（案）
- 資料5 計画ごみ質の検討（案）
- 資料6 環境保全計画（公害防止基準）の検討（案）
- 資料7 啓発施設・地域還元施設の検討（案）
- 資料8 埋設廃棄物調査結果
- 参考資料 においの評価（環境省） ※臭気指数関連資料
- 追加資料 一人一日あたり排出量の推計式

■審議経過

別紙のとおり

別 紙

審議経過

1 開会（13時30分）

2 議事

【会 長】

今回の議事録の署名は、細野委員と中山委員にお願いします。

（1）基本計画の概要、基本的条件について

【会 長】

資料1で示されている基本計画の構成は、あくまで現時点での案であって、今後の議論の進み方によって、項目の追加や削除等があり得ると考えて良いのか。

【事務局】

そのとおり。

【会 長】

資料2第2章第1節の川口市の概況については、上位計画の一般廃棄物処理基本計画に記載しており、基本構想でも触れていない内容である。将来人口の記載はごみ量の推計に関係するため必要だが、その他の内容は記載する必要がないのではないか。

【事務局】

記載内容を検討する。

【委 員】

基本構想の各項目は、基本計画とどのように関連しているのか。

【事務局】

基本計画は基本構想を踏まえて策定を進める。基本構想の中で一番重要な基本方針については、そのまま記載させていただいた。今後は、基本構想の第5章に記載している処理方式や公害防止基準等の各種諸元を検討するための考え方にに基づき、基本計画の第3章以降を整理する。

（2）処理方法（選定方法）について

【委 員】

処理方式ごとの実績は全国か、首都圏か。

【事務局】

全国のデータである。

【会 長】

焼却処理方式の評価については、評価項目の意味、評価の視点や方法を整理していただきたい。

【事務局】

評価基準の資料を作成し、次回提出する。

【委 員】

キルン方式やガス化改質方式を外す主な理由を採用例が少ないこととしているが、採用されない理由が大事なのではないか。もう一步踏み込んで記載していただきたい。

また、施設の稼働実績は23年度から27年度に供用開始した施設を対象としているが、有効であるならば年度に縛られることなく現在稼働している施設を対象に実績を整理した方がよいのではないか。

【事務局】

次回までに理由を追記する。また、各処理方式の実績を併せて整理する。

なお、清掃工場の整備については、国から補助金又は交付金が交付されるが、交付用件は時代によって異なる。ダイオキシン類対策の推進を背景に灰を溶融することが要件とされ、ガス化溶融方式の実績が増えていた時代がある。このような観点からもデータを見ていただければと思う。

【会 長】

ガス化溶融方式と単純な焼却方式とでは、灰やスラグなど排出される物が異なる。このことを踏まえて、比較表の各項目を平等に評価する必要がある。経済性についても考慮されているとの理解で良いか。考慮されていないのであれば工夫していただきたい。

【事務局】

評価方法を検討し、改めて追記する。

【会 長】

災害廃棄物の受入れなど、急なごみ質変動への対応も評価項目に加えてはどうか。経済性のデータが平成23年度の実績のため、補完する意味で、実績データがあれば入れて欲しい。また、二酸化炭素の排出量について処理方式ごとの定量的な参考数字があれば記載して欲しい。

【事務局】

確認し、データがあれば記載する。

【委 員】

ガス化溶融方式については、安全性の評価の欄で、ガス漏れ等に対する配慮が必要と記載されている。焼却方式よりも安全性を強化しているということなのか、それとも、留意点があるが安全性は確立しているというこ

となのか。

【事務局】

留意点があるが安全性が確立されていると考えている。

【委員】

戸塚環境センター西棟のストーカ炉から出る焼却主灰を朝日環境センターのガス化熔融炉で熔融しているとのことであれば、それぞれの焼却処理方式を個別に評価するのではなく、朝日環境センターも考慮に入れて評価した方が良いのではないか。

【事務局】

ご指摘のとおり、現在の川口市では戸塚環境センターの焼却主灰を朝日環境センターでスラグ化している。評価方法を工夫する。

【委員】

評価について、点数化はできないか。

【事務局】

各項目の重要度が異なり点数化が困難なため、3段階評価にしたいと考えている。

【委員】

流動床炉の前処理とはどのようなものか。

【事務局】

炉に入れる前にごみを小さくする必要があり、破碎機で碎いている。

【委員】

焼却主灰を朝日環境センターで熔融することで埋立量を減量できるの話があったが、最終的な埋立量についても評価項目に入れていただきたい。

【事務局】

朝日環境センターでの熔融スラグ化も加味して評価項目を修正する。

(3) 施設規模及び計画ごみ質について

【会長】

ごみ発熱量について、実際の運転のデータを検証した方がよいのではないか。

【事務局】

運転データを確認し、算定結果を検証する。

【会長】

粗大ごみの破碎後のごみ質は、性能指針の回収率を満たしているとの理解で良いか。

【事務局】

今回提示した、破碎後の数字は参考値として見ていただきたい。

【委員】

一般廃棄物処理基本計画には1人1日あたりのごみ排出量の目標値が定められているが、今回算定した将来ごみ量の推計結果との関連性と、最近の推移を説明して欲しい。

【事務局】

今回はあくまで実績データで将来ごみ量を推計しており、今後、一般廃棄物処理基本計画を改訂する際には、改めて見直すことを検討している。第6次川口市一般廃棄物処理基本計画では平成34年度の目標値を1人1日あたり844グラムとしている。平成25年度が904グラム、平成26年度が876グラム、平成27年度は866グラムと減少している。

【委員】

可燃ごみ中の紙類の割合はどれくらいか。

【事務局】

平成27年度では38.7%となっている。

【委員】

可燃ごみ中の紙類を資源物として回収できればごみを減量できるのではないか。

【事務局】

現状、紙ごみは資源ごみの扱いであるが、啓発に努める。

【会長】

可燃ごみと資源回収量の原単位から、可燃ごみがなぜ減っているかを推測できれば推計の根拠になるのではないか。

【事務局】

調査する。

(4) 環境保全計画（公害防止基準）について

【委員】

住民説明会で、ごみ収集車の騒音の話も出たが、公害防止基準にそのことは考慮されているのか。

【事務局】

ここでは施設からの騒音について記載しており、収集車等の影響は考慮していない。

【会長】

収集車等の影響は環境影響評価で評価するとの認識で良いか。

【事務局】

そのとおりである。埼玉県環境影響評価条例の対象事業であり、今年度から4年かけて実施する予定である。

(5) 啓発施設・地域還元施設について

【会 長】

市南部のリサイクルプラザとの役割分担や敷地の制約などを踏まえて、地元の意見を聞きながら進めていくとの理解で良いか。

【事務局】

そのとおりである。

3 報告

(1) 埋設廃棄物の調査結果について

【委 員】

重金属が綾瀬川へ流れ出したということは確認されていないか。

【事務局】

今回測定した中では確認されず、内部に止まっていると考えられる。

【委 員】

相当量のごみを埋めたてていた事実は間違いないが、法的な責任はないのか。

【事務局】

埋め立てていたのは昭和42年から48年頃であり、ごみが埋まっている状況について法的な問題はない。

【会 長】

工事する際は掘削することになるが、極力、環境負荷を与えない方法を考えていきたいという理解でよろしいか。

【事務局】

そのとおりである。

4 閉会（16時00分）

会議の概要については、以上のとおりです。

平成29年 6月 27日

川口市戸塚環境センター施設整備基本構想基本計画審議会

会 長(濱田会長署名).....

委 員(細野委員署名).....

委 員(中山委員署名).....